

甲斐市立竜王北中学校 自己評価書

令和8年 1月9日 (金) 作成

校長 「 青柳 香 」

記述者 職名(教頭)「 望月 英宏 」

学校教育目標 「豊かな心を持ち 自ら学び たくましく生きる生徒の育成」

学校経営方針

- (1) 豊かな人間性の育成
- (2) 確かな学力を育む指導と評価
- (3) 体力向上と健康安全意識の向上
- (4) 愛情と信頼に基づく生徒指導の充実
- (5) 安全・安心を基盤とし、家庭や地域に開かれた信頼される学校づくり
- (6) 意欲と熱意のあふれる教師集団の形成

1 全体評価

・肯定的な回答が、37項目中32項目で85%以上であり、教職員が高い意識で教育活動に取り組んでいることが見てとれる。

<肯定的回答率85%を下回る項目> ※現状の課題となるもの 8項目→5項目となった

I ⑤「学校は多忙化解消に努めている」(昨年度58.3%) 70.8%

II ⑫「業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている」(昨年度68.0%) 75.0%

III ⑯「習得した知識・技能を活用する授業づくり」82.6%

⑰「ICTを効果的に活用した授業」(昨年度50.0%) 56.7%

V ㉓「地域人材や施設を活用した教育活動」(昨年度58.3%) 50.0%

2 項目ごとの評価結果(達成状況・改善策)

I 学校教育目標に関して・学校経営について

項目	内容	肯定回答率
問1	学校経営方針等に基づいた教育活動	91.7%
問2	学年計画が目標を踏まえたものか	95.9%
問3	実態に即した教育実践	91.7%
問4	PDCAサイクルを生かした活動	95.9%
問5	多忙化解消のための取組	70.8%

達成状況

○5項目中4項目で肯定的な回答が90%以上であり、教職員一人ひとりが学校の目指す姿(経営方針・教育目標)を正しく理解し、日々の教育活動を行っていることが分かる。

(課題・意見)

△「学校は多忙化解消に務めている」については、肯定的な回答の割合が低かった。教育の質を高め、目標を達成しようと努力しているが、まだ現場の負担感があることが分かる。

改善策

- ・「学校の多忙化解消に努めている」については、昨年度の58.3%から12.5ポイント増加し、85%以下ではあるものの改善傾向が見られる。このことから、年間行事予定を校内企画委員会や職員会議において全教職員が検討・確認を行う取り組みや、連絡事項の校務支援システムや安心メールの活用など、具体的な対策が進められていると感じられるので、今後も継続していきたい。
- ・部活動については、大会前(総体・新人戦・コンクール)の1週間のみ朝練習を許可制とし、部活動指導員や外部指導者を活用して複数の顧問で指導できる体制を整えるとともに、教育委員会と連携しながら地域移行を推進していく。
- ・教職員一人ひとりに対して、多忙化の解消や業務改善のために何ができるかを考え、実行に移すよう呼びかけていく。
- ・行事終了後には振り返りを行い、PDCAサイクルを確立する。さらに、今後3年間を見通した計画を立て、各行事の目的を明確にし、内容のスリム化や業務の効率化を図る。
- ・教職員の意識改革を促進し、余暇を利用したさまざまな体験を通じて家庭生活を豊かにすることが、生徒への良い影響につながることを意識して取り組む。

II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

項目	内容	肯定回答率
問 6	危機管理マニュアルの理解	95.9%
問 7	個人情報・情報セキュリティの管理	100%
問 8	他の教職員との連携・協働	95.8%
問 9	職務上の「報・連・相・確」	95.9%
問 10	校内研究（研修）への主体的関与	91.7%
問 11	校務支援システムの十分な活用	87.5%
問 12	働き方改革（業務効率化）の意識	75.0%
問 13	職員間のコミュニケーション	95.9%

○ 8項目中7項目で肯定的な回答が85%以上である。

- ・「個人情報の保護」の100%を筆頭に「危機管理マニュアルの理解」「教職員の連携・協働体制」など肯定的な回答が多かった。「コミュニケーション」、「連携・協働」、「報・連・相・確」がいずれも95%以上と極めて高く、風通しの良い、協力し合える職場環境であることが言える。

（課題）

△「業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている」について

- ・昨年度の結果68%より7ポイント上がっているので意識は上がっているが、さらに業務の効率化が必要であるとする。

改善策

- ・業務の効率化は、働き方改革にとって重要な要素である。校務支援システムの十分な活用率は85%以上であるが、さらなる改善の余地があるとする。来年度には新たな校務支援システムが導入されるため、その効果的な活用を図るべく、組織的に使い方を習得していく必要がある。
- ・新しい校務支援システムでは、重複作業を防ぎ、多様な情報を共有して利用できる仕組みとなっていることを理解し、これを効果的に活用できるよう校内での学習を進める。
- ・コミュニケーションがとれる仲間関係を築き、「お互いの仕事を効率よく行うためにはどうすればよいか」を考え、声をかけ合いながら業務を円滑に進めていくことが求められる。

III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

項目番号	質問内容（要約）	肯定回答計
14	生徒の学びの意欲を喚起する授業	95.6%
15	個に配慮した基礎・基本の定着	95.7%
16	指導と評価の一体化	82.6%
17	ICTの効果的な活用	56.5%
18	協働的な学びの導入	95.7%
20	知識・技能を活用する授業づくり	95.6%

・6項目中4項目で肯定的な回答が85%以上である。

- ・「指導と評価の一体化」「ICTを効果的に活用した授業」において、肯定的な回答の割合が低かった。

【授業について】

（教職員アンケートから）

- ・「個に配慮した授業」（肯定的な回答）95.7%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
2	あなたは、個に配慮した授業を行っている。	今年度	26.1	69.6	4.3	0.0	95.7
		R6年度	20.0	65.0	15.0	0.0	85.0
		R5年度	36.4	59.1	4.5	0.0	95.5

(生徒アンケートから)

- 「学校の授業は楽しいか」(肯定的な回答) 80.5%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	学校の授業は楽しいですか。 A とても楽しい B 楽しい C あまり楽しくない D 楽しくない	今年度	19.6	60.9	15.1	4.4	80.5
		1年	16.8	62.1	15.8	5.3	78.9
		2年	13.6	59.1	21.6	5.7	72.7
		3年	27.4	61.4	8.0	2.3	88.8
		R6年度	21.5	60.8	13.6	4.2	82.3

- 「先生はよく勉強を教えてくれるか」(肯定的な回答) 98.9%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
5	先生はよく勉強を教えてくださいますか。 A よく教えてくれる B 教えてくれる C あまり教えてくれない D 教えてくれない	今年度	55.0	43.9	0.7	0.4	98.9
		1年	55.8	43.2	1.1	0.0	99.0
		2年	46.6	52.3	0.0	1.1	98.9
		3年	62.5	36.4	1.1	0.0	98.9
		R6年度	47.9	48.3	3.8	0.0	96.2

(保護者アンケートから)

- 「学校は熱心に授業に取り組んでいるか」(肯定的な回答) 88.5%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率	A+B
8	学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。 A とても思う B 思う C あまり思わない D 思わない E わからない	今年度	16.5	72.0	2.8	0.0	8.7	88.5
		1年	20.0	65.0	2.5	0.0	12.5	85.0
		2年	16.9	73.2	0.0	0.0	9.9	90.1
		3年	11.9	79.1	6.0	0.0	3.0	91.0
		R6年度	13.1	70.0	7.9	1.5	7.5	83.1

【ICTの活用について】

(教職員アンケートから)

- 「ICTを効果的に活用した授業を行っている」(肯定的な回答) 56.5%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。	今年度	8.7	47.8	39.1	4.3	56.5
		R6年度	15.0	35.0	50.0	0.0	50.0
		R5年度	28.6	52.4	19.0	0.0	81.0

(生徒アンケートから)

- 「クロームブックは、学習活動に役立っていますか。」(肯定的な回答) 94.4%

25 【学校オリジナル】クロームブックは、学習活動に役立っていますか。
271件の回答

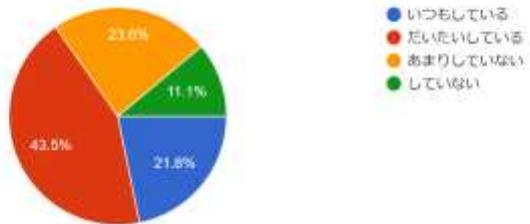


【宿題や家庭学習に対する指導について】

(生徒アンケートから)

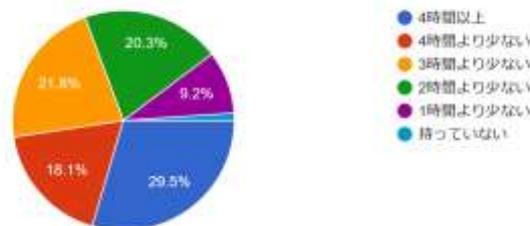
16 月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標…。(※1年：70分、2年：80分、3年：90分)

271件の回答



18 スマホ・タブレット・ゲーム機・パソコンを…で、一日あたりどのくらいの時間、使いますか。

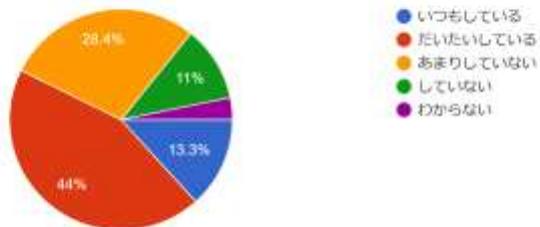
271件の回答



(保護者アンケートから)

13 お子さんは、宿題の他にも家庭で自主学習（…但し、塾や家庭教師は、除く）をしていますか。

218件の回答



(生徒アンケートから)

- ・「人前でしっかりと自分の意見を言うことができるか」(肯定的な回答) 67.1%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
9	人前でしっかりと自分の意見を言うことができますか。 A よくする B する C あまりしない D しない	今年度	22.5	44.6	28.9	4.9	67.1
		1年	23.2	36.8	34.7	5.3	60.0
		2年	19.3	48.9	27.3	4.5	68.2
		3年	25.0	48.9	22.7	3.4	73.9
		R6年度	24.9	43.0	27.2	4.9	67.9

(課題)

△「指導と評価の一体化に努めた授業を行っている」

- ・授業の中で生徒の状況を把握し、それを次の指導や評価に繋げることが難しい。

△「ICTを効果的に活用した授業を行っている」

- ・昨年度は、研究のテーマとしてICTの研究を意識して行ったが、今年度は昨年度のように組織的に取り組むことができなかった。

- ・「指導と評価の一体化」については、今年度も教科部会を開催し、効果的な評価方法の研修・研究を進める必要がある。また、竜北学習スタンダードの振り返りの研究も継続し、評価につながる振り返りの方法を模索していきたい。さらに、タブレットを活用した効果的な振り返りや評価方法の確立を目指す。
- ・昨年度の校内研修において、「ICTの効果的な活用の研究」を行い、ロイロノートを用いた授業や夏休み期間中の生徒の「生活の記録」をタブレットで実施している。しかしながら、教員全体への浸透にはまだ課題があり、ICTを積極的に活用する教員とそうでない教員とに分かれている状況である。教員間の研究交流を促進し、ICTの最新知見を取り入れるために、定期的な講習会や研修の開催も必要である。
- ・授業については、教員が個に配慮した指導を意識して行っていることが把握できるが、一部の生徒が授業を楽しく感じていない現状もある。これらの生徒を授業に引き込み、飽きることなく集中させるための授業構成や発問の工夫について研究を深めていきたい。
- ・生徒アンケートの結果、「人前でしっかりと自分の意見を言うことができるか」が低い傾向にある。これに対しては、毎回の授業で協働的な学習の機会を設け、自分の考えを話す場を増やすとともに、総合的な学習の時間においても発表の機会を増やすことで、生徒の肯定感を高める取り組みを推進していきたい。

IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

項目番号	質問内容（要約）	肯定回答計
21	民主的で規律ある集団づくり	100%
22	生徒理解のためのコミュニケーション	95.7%
23	生徒の規範意識をはぐくむ指導	100%
24	キャリア教育の実態に応じた実施	95.6%
25	いじめ・不登校の早期発見・対応	87.0%
26	道徳教育を通じた豊かな心の育成	91.3%

・全6項目で肯定的な回答が85%以上である。

【問題行動（いじめ、不登校等）の早期発見・早期対応について】
（教職員アンケートから）

・「問題行動の早期発見・早期対応ができています」（肯定的な回答）87.0%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
5	あなたは、問題行動（いじめ、不登校等）の早期発見・早期対応ができています。	今年度	17.4	69.6	13.0	0.0	87.0
		R6年度	36.4	50.0	13.6	0.0	86.4
		R5年度	50.0	45.5	4.5	0.0	95.5

（生徒アンケートから）

・「学校は楽しいか」（肯定的な回答率）87.5%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
1	学校は楽しいですか。 A とても楽しい B 楽しい C あまり楽しくない D 楽しくない	今年度	42.1	45.4	9.2	3.3	87.5
		1年	43.2	47.4	6.3	3.2	90.6
		2年	34.1	45.5	14.8	5.7	79.6
		3年	48.9	43.2	6.8	1.1	92.1
		R6年度	38.7	49.2	10.2	1.9	87.9

・「いろいろなことを相談できる友達はあるか」「いない」3.7% 4人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
2	いろいろなことを相談できる友達はいますか。 A たくさんいる B いる C あまりいない D いない	今年度	39.5	53.1	3.7	3.7	92.6
		1年	37.9	53.7	4.2	4.2	91.6
		2年	30.7	58.0	4.5	6.8	88.7
		3年	50.0	47.7	2.3	0.0	97.7
		R6年度	41.0	50.0	8.3	0.8	91.0

※この回答から、多くの生徒は困ったことがあったら相談できる友だちがいることがわかる。しかし、全校で10人の生徒が「いない」と答えている。

- ・「困ったことがあったら相談できる先生はいるか」 「いない」 5. 2% 14人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
11	困ったことがあったら相談できる先生はいますか。 A いる C あまりいない D いない	全校	68.2		26.2	5.2	
		1年	58.9		33.7	7.4	
		2年	68.2		27.3	4.5	
		3年	79.5		17.0	3.4	
		R6年度	74.2		23.5	2.3	

※この回答から、多くの生徒は困ったことがあったら相談できる先生がいることがわかる。しかし、全校で14人の生徒が「いない」と答えている。

(保護者アンケートから)

- ・「お子さんには、相談できる友達がいるか」 「いない」 0. 5% 1人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率
3	お子さんには、困ったことがあった時に相談などのできる友達がありますか。 A いる C あまりいない D いない E わからない	全校	77.5		5.0	0.5	17.0
		1年	85.0		2.5	0.0	12.5
		2年	73.2		2.8	1.4	22.5
		3年	73.1		10.4	0.0	16.4
		R6年度	73.4		9.5	1.1	16.0

※この回答から、77. 5%の保護者が「子どもには相談できる友達がいる」と考えていることがわかる。しかし、「いない」と答えている保護者が1人、「わからない」という保護者が37人いる。

- ・「お子さんのことで、相談できる先生がいるか」 「いない」 2. 8% 6人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率
10	お子さんのことで、相談できる先生がいますか。 A いる C あまりいない D いない E わからない	全校	72.9		7.8	2.8	16.5
		1年	72.5		5.0	5.0	17.5
		2年	71.8		8.5	1.4	18.3
		3年	74.6		10.4	1.5	13.4
		R6年度	66.4		18.9	6.0	8.7

※この回答から、72. 9%の保護者が「相談できる先生がいる」と考えている。「わからない」という保護者が36人いる。

【いじめの早期発見・早期対応について】

- ・6項目とも85%を越えているが、「いじめ・不登校の早期発見・対応」については他の項目に比べ、若干低いことから、教職員が難しい問題であると考えている。
- ・担任一人に責任を負わず、部活動の顧問、養護教諭、副担任、あるいは以前の担任など、生徒が「この人なら話しやすい」というように教職員全員で生徒を見ていく。
- ・教員の主観だけでなく、「アンケート調査」「QUの結果」のデータから生徒の変化を読みとり、早期対応に努める。
- ・授業中だけでなく、休み時間や放課後の生徒同士の関わりを観察する時間を設け、気になる生徒について「生徒指導部会」や「職員会議」において情報交換及び認知されたいじめの解決に向けた方策を検討していく。
- ・「いじめは、どの学級でも起こりうるものであり、誰もが加害者にも被害者にもなり得る。」という認識をもち、校長のリーダーシップのもと、学校全体で迅速かつ組織的に対応する。
- ・「竜王北中学校いじめ防止基本方針」の見直しを定期的に行い、その方針に従いながら取り組んでいく。
- ・重大事態発生時には、校内委員（校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、不登校担当、養護教諭、当該学級担任、学年主任）だけでなく、校外委員（スクールカウンセラー、学校運営協議会員、PTA役員、関係機関）も必要に応じて招集し、学校設置者の指導・助言のもとに対応にあたる。
- ・未然防止の取組として、「学級経営」「道徳を含めた授業」「学校行事」「生徒会活動」等、学校での教育活動全般を通して、互いに思いやる関係づくりを全校挙げて行う。
- ・自治活動として、生徒会が主体となり、生徒発の取組を活発に行っていきたい。

【不登校生徒への対応について】

- ・生徒の変化の様子を日頃から生徒の観察や生活記録ノートでのやり取りを行う。また、「遅刻・欠席の微増」「提出物の遅れ」などデータからも読みとれるようにする。
- ・不登校生徒を出さないための取組として、甲斐市教育委員会で示された「不登校取組リーフレット」「講演会」「道徳教育の充実」「中一ギャップ解消のための小中連携」「いじめ等調査の定期的実施」等をこれからも継続して行っていく。また、
- ・生徒会活動では、学園祭などの生徒会行事を通して生徒同士のつながりを深める活動を行い、さらに「あいさつ運動」や「ありがとう郵便」など自己肯定感を高める活動も継続して行っていく。
- ・不登校生徒への対応の取組として、「生徒理解部会を中心とした組織的対応」「SC・SSW・サポートルーム・オアクルーム・子育て支援課・児童相談所等の関係機関との連携」をこれからもきめ細かに行っていく。また、必要に応じて「ケース会議」を開き、個々の生徒に対する対応策を協議し、その対応を丁寧に行っていく。教室に戻ることを目標とするが、担任でなくても誰かと繋がっていることに重点を置き、居場所づくりに努めていきたい。

【相談できる友達・先生について】

- ・相談できる友達や先生がいない、と回答する生徒が少数存在する。このことを教職員一人一人が重く受けとめ、学校として、日頃の生徒との関わりを見つめ直し、よりよい関係づくりを今後も地道に進めていく。
- ・お子さんのことで相談できる先生がいない、と回答する保護者が数名いる。また、わからないという回答が多くことも気になる。子どもの健やかな成長のためには、家庭と学校の連携が必要である。そのために問題が起きた時だけ連絡するのではなく、生徒の頑張ったことや良かったことをこまめに（電話や連絡帳で）伝えるようにし、保護者の学校への信頼度が高まり、相談しやすくする。

V 地域との連携について

達成状況

項目番号	質問内容（要約）	肯定回答計
27	地域の人材や施設の活用	50.0%
28	保護者や地域の願いの情報収集	95.8%
29	HP等を通じた情報発信・広報	95.8%
30	PTA活動への積極的参加	87.5%
31	地域・保護者と連携した安全確保	100%
32	学校評価の結果の活用	100%

- ・6項目中5項目で肯定的な回答が85%以上である。
- ・「地域人材や施設を活用した教育活動」については、肯定的な回答が85%を下回った。

(教職員アンケートから)

- ・「地域人材や施設を活用した教育活動」(肯定的な回答) 58.4%→50.0%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
1	あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。	今年度	12.5	37.5	37.5	12.5	50.0
		R6本校	16.7	41.7	33.3	8.3	58.4
		R5本校	13.0	56.5	21.7	8.7	69.5

改善策

- ・「地域人材や施設を利用した教育活動」については、結果は低かったが、1学年の福祉講話、2学年の職場体験の受入、3学年の人権教室など地域人材を活用してきた。今後も効果的に地域人材を活用し、生徒の教育にいかしていきたい。
- ・PTA活動については、今年度もPTA愛校作業を2回実施した。2回とも協力者を募集して行ったが、多くの保護者が参加し校舎周辺の環境整備を行うことができた。また、愛のパトロールや広報誌「ききょう」の作成・発行を行った。今後は、PTA活動もより良いものとなるよう内容の改善などを行っていきたく考えている。
- ・これからの学校には、学校・地域・保護者が一体となって子どもの成長を支えていく「地域とともにある学校」という視点が必要である。また、教員の働き方改革のうえでも、地域が学習支援や部活動の地域移行など連携していくことが大切であると考えます。

VI 学校の特色に関して

達成状況	項目番号	質問内容（要約）	肯定回答計
	33	あいさつ活動	100%
	34	行事への取り組み	100%
	35	読書活動	91.7%

・全3項目で肯定的な回答が85%以上である。

改善策
 ・本校の伝統である「あいさつ運動」や「行事への取り組む姿勢」は、生徒・保護者・教職員から本校の強みとして高く認識されている。地域からの好意的な反響が生徒の自信となっている。そして、生徒会を中心とした主導的な活動へと発展している。今後は、生徒の主体的なエネルギーを核とし、保護者や教職員がサポートして教育活動の更なる質の向上を目指していきたい。

VII 創甲斐教育について

達成状況	項目番号	質問内容（要約）	肯定回答計
	36	朝読書を通して、国語力の向上に務めている	100%
	37	学校全体で授業や行事を通して、表現力の向上に務めている	91.6%
	38	部活動や体育の授業を通して、持久力の向上に取り組んでいる	100%
	39	道徳教育を通して、生徒の豊かな心の育成に努めている	94.4%

・全4項目で肯定的な回答が85%以上である。

改善策
 ・全ての項目において目標の85%を上回る良い結果であった。特に「国語力の向上」「持久力」については、100%と高い評価を得ている。今後は、「表現力の向上」や「道徳教育」の更なる向上を目指し、生徒のさらなる成長につながると考えている。

3 まとめ

〈成 果〉

- ・教職員一人ひとりが学校の経営方針や教育目標を正しく認識し、高い目的意識を持って日々の教育活動に従事している。特に生徒との積極的なコミュニケーションを通じて個々の実態把握に努め、生徒と同じ目線で共に教育活動を創り上げていく姿勢が、組織全体の教育力を支える基盤となっている。
- ・生徒の実態を客観的に把握することで、指導上の課題や改善の方向性が明確化され、次年度以降の学校経営を最適化するための貴重な示唆を得ている。
- ・学校運営に対する保護者の多角的な見解を把握し、共に子どもの成長を支えるパートナーとしての共通理解を形成したことは、教育活動を推進する上で極めて有意義である。
- ・学園祭や合唱発表会といった大きな行事だけでなく、日常のあいさつ運動やボランティア等の生徒会活動が、生徒自身の主体的な運営によって極めて活発に展開されている。生徒一人ひとりが自己の役割を果たし、集団の中で達成感を得られる機会が増えたことが、自己肯定感を高め、充実感に満ちた豊かな学校生活の実現へと結びついている。

<課 題>

- ・多忙化・働き方改革については、行事検討や先を見越した予定づくり・安心メールの活用などを行った成果もあり改善点が見られるが、まだまだ改善の余地や個人差をなくしていく必要がある。そのためにも、来年度から導入される次期校務支援システムを効果的に活用することや教職員の意識改革にも継続して取り組んでいく必要がある。
- ・不登校対応においては、生活記録や提出物、欠席状況などのデータや表情・態度等から小さな変化を捉え、未然防止に努めていく必要がある。また、具体的な取組として、甲斐市教育委員会の方針に基づいた小中連携や道徳教育を継続するとともに、生徒会行事や「ありがとう郵便」といった活動を通じて、生徒の自己肯定感を高め、つながりを深める場を創出していきたい。不登校傾向にある生徒に対しては、SCやSSW、外部の関係機関と緊密に連携し、ケース会議を通じて個々の状況に応じた丁寧な支援を行い、「教室復帰」を最終的な目標としつつも、まずは「学校内の誰かと繋がっていること」を重視し、安心して過ごせる居場所づくりを推進していきたい。
- ・ICTの活用については、ロイロノートの導入やタブレットによる「生活の記録」の実施など活用はしているが、教員間での活用状況に差がある。今後は、ICTを積極的に活用する教員との研究交流を促進し、定期的な講習会や研修を通じて全教員が最新の知見を取り入れられる学習会など開いていきたい。特に、タブレットを単なる記録ツールに留めず、「指導と評価の一体化」を実現するための効果的な振り返りや、個に応じた評価方法の確立に向けて組織的に研修・研究を進めていきたい。
- ・授業においては個に応じた指導を意識しているが、一部の生徒が意欲を持っていない現状を真摯に受け止め、生徒を飽きさせない授業構成や発問の工夫について研究を深める必要がある。特に、自分の意見を言うことに苦手意識を持つ生徒が多いことから、毎時間の授業に協働的な学習を取り入れ、自分の考えを話す機会を意図的に増やすことも考えていきたい。こうした授業での成功体験を通じて生徒の肯定感を高め、総合的な学習の時間での発表機会とも連動させることで、自ら学ぶ意欲を家庭学習の充実へと繋げていく取り組みを行っていきたい。
- ・「創甲斐教育」の基本理念である「甲斐市で育ち、甲斐市を育てる人づくり」を核とし、国語力・表現力・体力の向上を柱とした教育活動を推進します。市や地域の事業所と緊密に連携することで、生徒が郷土を深く理解し、自ら地域を活性化させる主体へと成長できるようにしていきたい。
- ・今回の結果をこの1年間の本校の教育活動の結果であると捉え、教職員で共有し、次年度に確実につなげていく。